

「高い壁つくっても 歴史書き直しても 自身が傷つく」

村上春樹さん「影と共に生きる道を」

デンマークでの授賞式で語る



童話作家アンデルセンゆかりの家の前に立つ村上春樹さん。ハンス・クリスチャン・アンデルセン文学賞選考委員会提供

デンマーク生まれの童話作家アンデルセンにちなむハンス・クリスチャン・アンデルセン文学賞の授賞式が30日、アンデルセンの生誕地オーデンセであり、受賞した作家の村上春樹さん(67)が出席した。賞金は50万デンマーク・クローネ(約800万円)。登壇した村上さんはアンデルセンの「影」という作品を引き合いに出し、「人間一人一人に影があるように、あらゆる社会や国家にも影がある。明るくまぶしい面があれば、それに釣り合う暗い側面があるのです」と英語でスピーチ。「私たちは時に、影の部分から目を背けようとしています。あるいは無理やり排除してしまおうとします。でもどんなに高い壁をつくって外から来る人を締め出そうとしても、どんなに厳しく部外者を排除しようとしても、あるいはどれだけ歴史を都合のいいように書き直したとしても、結局は自分自身が傷つくことになる。自らの影、負の部分と共に生きていく道を、辛抱強く探っていかなければいけないのです」と語った。

同賞は「ハリー・ポッター」で知られるJ・K・ローリング氏や「悪魔の詩」の著者サルマン・ラシュディ氏らが受賞している。(オーデンセ＝柏崎敏、渡辺志帆)